

シナリオ解説

◎推理のポイント

翡翠犯人説と黒岩鋼犯人説を否定し、2人の潔白を改めて示すことで、犯人を特定することができます。

翡翠の潔白

翡翠犯人説は、2月10日14時ちょうどに監視カメラに映ったのが、翡翠本人ではなく彼女に変装した怪盗ホープだった、というものです。

しかし入室記録の詳細データを確認すると、2月10日14時ちょうど、まさに翡翠が撮影されたのと同時刻に、怪盗ホープである黒岩がセキュリティゲートを通過していることがわかります。

以上より、監視カメラに喫煙姿を撮影された翡翠は本物で間違いないので、翡翠犯人説は否定されます。

黒岩鋼の潔白

黒岩鋼犯人説は、彼が一週間ほど前から毎日、他の人物（浅尾誠）に変装してセキュリティゲートを通過し、飛ばしのスマホを持ち込むことにより、どの日も自分の潔白を示せるようにしていた、というものです。

このとき当然、ゲートを2度以上通過すると自分がスマホを持ち込めなかったという潔白の証明ができなくなるので、黒岩は（変装して飛ばしのスマホを置くのを除いて）ゲートを1回しか通ってはいけません。

確かに事件当日はそうでした。でも、それ以前は違います。

シャンデリアがいつ落下するか——どの日に事件が起きるかは、犯人にもわかりません。そのため黒岩が自分の潔白を示すためには、2月13日と同様、他の日もセキュリティゲートを1回しか通らないようにする必要がありました。

しかし2月10日から12日まで、黒岩はどの日も2度メインホールを出入りをしています。また、日長・翡翠・月長は、煙草休憩のためか、よく手ぶらでホールを出ていく黒岩の姿を目撃しています。

以上より、黒岩が毎日（どの日も）自分の潔白を示せるようにしていた、という黒岩鋼犯人説は否定されます。

補足ですが、事件当日に黒岩が浅尾誠に変装していたとしたら——つまり浅尾誠が日記に残した『毎日お昼に通っているお気に入りの場所』が宝石展のことでなかったとしたら——10日から12日に宝石展に来たのも、黒岩が変装した浅尾誠だったことになります。

つまり黒岩が犯人だと仮定すると、彼は他人に変装してゲートを通過する工作を行っているにも関わらず、わざわざ自分の潔白を示せなくしている訳です。

ゲームのルールとしては犯人説を否定すれば潔白が証明されるため、ここまでの推理は不要ですが、以上のように黒岩があまりにも不合理な（犯人だとしたら自分に不利益な）行動を取っていることから、黒岩の潔白が示されます。

犯人の特定

翡翠と黒岩の潔白が改めて示されたことにより、事件当時メインホールにいた5人全員に犯行が不可能だったことがわかります。

改めて犯人の条件を確認しましょう。犯人はシャンデリアの異音を聞くことができ、飛ばしのスマホをホール内に置ける人物です。

そしてメインホール内に犯人がいなかったことは既に示されているため、犯人はホールの外から——つまり遠隔でシャンデリアの異音を聞いたことになります。

果たして、どうすれば遠隔で異音を聞くことができたのか？ 実はこの検証のために参考になりそうな証拠がありました。日長の証拠カード「証言2」です。

停電の直前——シャンデリアの異音が聞こえたとき、堇青は通話中でした。

そのとき、実はシャンデリアの異音は通話相手にも聞こえていたのです。

通話で異音を聞くことができたとなれば、犯人の条件は飛ばしのスマホをホール内に持ち込めるか否かだけ。飛ばしのスマホをホール内に持ち込むためには、2度以上セキュリティゲートを通過する必要がありました。

そして事件当日、既に潔白が示された日長・翡翠・月長を除いて、ゲートを2度以上通過したのは一人だけ——犬吠埼だけです。

以上より、犯人は探偵・犬吠埼瑠璃だと特定できます。

犯行トリック

犬吠埼はまず昼過ぎにメインホールを訪れ、自分のスマホを人目の付かないところ——南東の隅に隠してからホールを出ました。この場所は監視カメラから死角になるため、隠している姿も記録に残りません。

その後はずっと、手元にある別のスマホを隠した自分のスマホと通話中にしておきます（別のスマホで通話したのは、飛ばしのスマホに怪しい通話履歴を残さないようにするためです）。これで犬吠埼は、メインホールに隠した自分のスマホ越しに、シャンデリアの異音を聞くことができるようになりました。

19時過ぎに異音を聞いて、犬吠埼は飛ばしのスマホで停電発生装置とレーザーポインターを起動します。当然すべてメインホールの外からです。

その後、犬吠埼は堇青からの連絡を受けてメインホールに向かいます（連絡がなくても犬吠埼は適当な理由を付けてホールに向かうつもりでした）。

ちなみに、オープニングで堇青が犬吠埼の事務所に連絡を入れています。犬吠埼の事務所への電話はホールに隠した自分のスマホではなく、手元にある他のスマホに転送されるよう設定してあります。

宝石展の会場に着くと、犬吠埼は飛ばしのスマホとともにセキュリティゲートを通します。

つまり、飛ばしのスマホは事件後にメインホールに持ち込まれました。

犬吠埼はメインホールに入ると、スマホを隠した南東の隅の近く——展示台の奥まで歩いてから、殺人であることを証明すると言ってもう一度停電を起こします。

この停電の真の目的は、2台のスマホを入れ替える隙を作ることでした。

犬吠埼は十数秒間の停電中の暗闇に乗じて、ホールに隠していた自分のスマホと、さきほど持ち込んだ飛ばしのスマホを入れ替えたのです。

オープニングに描写がありますが、犬吠埼のスマホは手帳型のケースに入っていました。停電中にカバーケースを付け替えれば、2台のスマホを入れ替えたことにも気付かれずに済みます（カバーケースには飛ばしのスマホの画面以外に指紋を付けずに済むという利点もあり、入れ替え時に指紋を消すときは画面を拭くだけで済みました）。

また、証拠カード「停電発生装置」を確認すれば、停電発生装置へのスマホの登録で記録されるのは分単位まで。停電が直ってすぐ、手元に戻ってきた自分のスマホを登録すれば記録上は矛盾しません（停電が終わってから作業を行うのは、暗闇ではスマホの明かりが目立ってしまうからです）。

登録作業も、事前に登録直前の画面まで進んでおけば、数タップだけで完了させることができました。

.....

◎事件の背景

20年前、嘆きのダイヤの持ち主であった女性が自殺しました。

彼女の死に出くわした阿望^{りんよう}燐葉は、彼女を殺したと誤認逮捕された末に、元からの病弱さもあってその半年後に亡くなります。

阿望燐葉の死後、夫である阿望剛は妻の死をダイヤのせいだと思い込むようになります。

呪われたブルーダイヤモンド、嘆きのダイヤ。

そのダイヤには、触れたものの魂を吸い殺すという噂があったからです。

そして阿望剛は、さらにこう考えました。

嘆きのダイヤが触れたものの魂を吸い殺すならば、嘆きのダイヤのせいで死んだものの魂は嘆きのダイヤの中にあるはずだ。

阿望剛は亡き妻に会うため、そして家族全員で過ごすために、嘆きのダイヤを手に入れ宝石展を開くことにします。

——嘆きのダイヤの中に亡くなった大切な人がいる。

その思い込みが事件の発端でした。

実のところ、そう信じていたのは阿望剛だけではなかったのです。同じような思い込みを——信仰を持っていた人物が2人いました。

1人目は飛び降り自殺した女性です。

彼女は元々の嘆きのダイヤの持ち主であった夫を亡くしており、夫は嘆きのダイヤに殺されたのだと、嘆きのダイヤを恨んでいました。しかし同時に、嘆きのダイヤの中に夫が囚われているのだと信じ込み、嘆きのダイヤを手放せずにもいたのです。

彼女は矛盾する感情に^{さいな}苛まれ、最終的に自ら死を選びます。憎くて愛おしい嘆きのダイヤと共に。

2人目は、飛び降り自殺した女性の娘です。

母親が自殺した後、娘は両親は嘆きのダイヤの中にいるのだと信じ込むようになります。ダイヤの中で2人は幸せに過ごしているのだ、と彼女は自分にそう言い聞かせていました。

——だって、もし母親が嘆きのダイヤの中にいないのだとしたら、^{ダイヤの呪いで死んだのでなければ}、母親は自分の意志で私を置いていったことになる。そんなはずがない——。

その娘というのが探偵・犬吠埼瑠璃です（ちなみに犬吠埼という苗字は、両親の死後に彼女を引き取った親戚のものです）。

しかし、嘆きのダイヤを展示する阿望剛の宝石展で彼女は目撃してしまいます。

阿望剛が嘆きのダイヤの中に、自分の妻である阿望燐葉がいるように振舞っている姿を。

——そんな訳がない。^{そこにいるのはあなたの家族じゃない}。

犬吠埼瑠璃にとって、それはあってはならないことでした。彼女にとって嘆きのダイヤの中にいるのは自分の両親でなくてははいけなかったのです。

自分には嘆きのダイヤの中に何も見えないのに、聞こえないのに。^{自分の両親の存在を感じられないのに}。

阿望剛は彼の妻をダイヤの中に見ることができる、というのは彼女には受け入れられないことだったのです。

そこで彼女は阿望剛を否定する計画を立てます。彼の信じる阿望燐葉を否定するために。嘆きのダイヤの^{不在証明}をするために。

犬吠埼が阿望剛殺害のために、手の込んだ計画を立てた理由もここにあります。
彼女は阿望剛が死ななくても構いませんでした。もし阿望剛が嘆きのダイヤを
庇おうとしなかったなら——つまりダイヤの中にいる妻・燐葉を守ろうとしな
かったなら、それは阿望剛のこれまでの振る舞いがただの演技だったということ
に他なりません。

この場合、阿望剛が死ななくとも阿望燐葉の不在が証明されたことになります。
より正確に言えば、阿望剛には妻の存在が見えていない、ということさえ証明
できれば犬吠埼にとっては十分でした。その証明さえできれば、誰にも見えない
としても、ダイヤの中に魂を吸われた人達がいるという可能性が残ります。

犬吠埼にとって真に否定すべきは、自分には両親が見えないのに阿望剛には妻
が見えている——まるでダイヤの中には自分の両親はおらず、彼の妻だけがいる
——という状況だったのです。

もちろん、阿望剛の信仰を否定したいだけなら、つまり彼を驚かしたうえで嘆
きのダイヤを庇うかどうか見るだけなら、彼を殺す必要はありません。

犬吠埼がそれでも殺人計画に^{こだわ}拘ったのは、もう1つの可能性——嘆きのダイ
ヤの中にいる魂を観測できるのはダイヤの持ち主だけだ、という可能性を検証す
るためでした。

彼女が阿望剛の死を必要としたのは、彼が死なない限り、彼女が嘆きのダイヤ
を手に入れることは不可能だったからです。しかし阿望剛が死ねば、捜査の後に
返却された嘆きのダイヤは、傷やくすみのチェックのためにいったん（彼女の勤
める）保険会社に回収され、ダイヤを手に入れるチャンスが巡ってきます。

自分が犯人だと暴かれなければ、犬吠埼は嘆きのダイヤとともに姿を消します。
嘆きのダイヤの所有者となり、そこにいるはずの両親と会うために。

.....

◎捜査の背景

黒岩鋼の狙い

阿望剛が亡くなった後、神奈川県警の刑事・黒岩鋼は異例の速度で逮捕までの
手続きを進めます。

黒岩は阿望日長・月長が共犯だと疑っていました。
もし共犯であれば、日長がメインホールに飛ばしのスマホを持ち込み、月長が
そのスマホを使って事件を起こすことで、事件の謎はすべて解決します。
ただし、共犯関係を証明するには時間の掛かる地道な捜査が必要になります。
怪盗ホープという裏の顔を持つ黒岩には時間がありませんでした。

早くしないと——自分が犯人だと誰かが疑い始めるかもしれない。この事件が単独犯ならば、それは怪盗ホープである自分でしかあり得ないのだから。

さらに黒岩は、こんな風に考えます。

もし誰かが犯人は怪盗ホープだと推理すれば、自分が怪盗ホープであることが疑われてしまうかもしれない。殺人事件の犯人ではないが、怪盗ホープだと疑われるのはまずい。

そこで黒岩は、事件の3日前に翡翠と怪盗ホープが入れ替わっていた、というありもしない推理を持ち出して翡翠を犯人に仕立て上げます。いったん翡翠に疑いを向けておき、その間に日長・月長の共犯関係を探ろうという作戦です。

そして、この推理にはもう1つ別の狙いもありました。

自分が怪盗ホープでないとアピールすること。

事件の3日前——2月10日の14時に翡翠が怪盗ホープに入れ替わられていたなら、同時刻にセキュリティゲートを通過している黒岩は、怪盗ホープではないという不在証明^{アリバイ}を得ることができます。

そういう訳で、黒岩は焦って阿望翡翠の逮捕状を請求したのでした。

犬吠埼の狙い

犬吠埼が「黒岩は怪盗ホープである」という推理を持ち出したのも、黒岩と似たような理由です。

彼女は事件の後、すぐに自分以外の潔白が証明できることに気付きます（流石の犬吠埼も、黒岩が捻り出した翡翠犯人説には思い至りませんでした）。

全員の潔白が示されてしまえば、自分が犯人だと疑われてしまうかもしれない。捜査を攪乱^{かくらん}するために他の可能性を示さなくては——そうして捻り出したのが、黒岩＝怪盗ホープという推理でした。

この推理が一部真実を捉えていたのはあくまで偶然のことでしたが、まったくの偶然という訳でもありません。

犬吠埼は、事件の準備・実行のために、毎日宝石展の会場に出入りする必要がありました。そこで出したのが、怪盗ホープの予告状です。この予告状により、犬吠埼は警備という名目で宝石展に頻繁に出入りできるようになりました。

一方の黒岩は、自分が本物の怪盗ホープであるために、偽の予告状に興味を持ちます。誰が、何の目的で偽の予告状を出したのか？

犯行のために出した偽の予告状が本物の怪盗を呼び寄せたために、犬吠埼の推理は偶然にも的を射ることになった訳です。